

電気新聞 連載

時評「ウエーブ」 第十五回

スーパー・シチズンの反旗

元世界銀行副総裁

シンクタンク・ソフィアバンク シニア・パートナー

西水美恵子

時評「ウエーブ」 十五回 スーパー・シチズンの反旗

国づくりは人づくりと、世界数カ国でリーダーシップ養成にいろいろな奉仕をしている。その教え子のひとりから、本当に日本人なのかと問われたことがある。

「真正正銘、日本製！」と旅券を見せた。「けれど教育は日本とアメリカで受けたから、平均して太平洋製かな。米国に長く住み英国人と結婚したから、大西洋製とも言える。でも今はカリブ海域を住処に地球が仕事場」。まるでFOC船みたいな人だと笑われた。

Flag of Convenience を略してFOC。その「便宜置籍国の旗」は、船主の国旗ではない。低い税金や、安い経費、緩和な規制を提供する国に船籍を登録するからだ。20世紀初期にパナマが始めて以来、FOCを財源にする国が増え、パナマや、リベリア、バハマを筆頭に、約40カ国が競って船籍サービスを提供している。

国籍の選択を商売の術にするのは船に限らない。オフショア金融がまさにそれで、企業の国籍にもFOC的な要素がある。株主の国籍を考慮に入れると、社籍がさっぱりわからなくなる会社も多い。

そして遂に人間もFOCを掲げるようになった。「超越する民」とでも訳すのか、スーパー・シチズンと呼ばれる人種だ。彼らは、税制の透明度や税率、教育制度、医療制度、治安、自然環境など、生活とキャリアのために様々な便宜を評価して、永住権や国籍を選ぶ。極端な例は、豪華客船型マンション。超越する民が大洋という無法・国際法地帯に解放を求め、FOC船そのものを自宅とする。

国籍を政略結婚のように扱う人種は、昔からいた。大富豪や芸能界の著名人だが、動機は税金逃れのみだった。それが中産階級化していると言える。移民の歴史は人類の歴史。戦火や、災害、差別、迫害、貧困から逃れ新天地を求め人々の歴史だった。その歴史に質の異なる一章が加わった。

世銀を辞した後の住処に選んだ英領バージン諸島は、英国海外領土の安心に、米ドル通貨の特典、良いガバナンスなどが加わって栄えるオフショア金融センター。世界中から集まったスーパー・シチズンも、うようよしている。

私達夫婦も彼らと似通った評価をしてこの島国を選んだ。が、人生の選択をいろいろするうちに結果的にそうなった。「だから国籍は愛する母国のまま」と胸を張ったら、夫に「断言できないぞ」と笑われ、ある事件を思い出した。

英国の義母が危篤との知らせに当日の航空券を緊急手配していて旅券が切れているのを発見。慌ててワシントンの日本大使館に走った。受付で懸命に事情を説明したが、至極冷たくあしらわれた。

義母の最後にまにあった夫に葬式にも行けないと謝ったら、まだ英国大使館があると言う。半信半疑で電話をかけて驚いた。まず交換手が「世界銀行の国連パスポートを持って、至急来館してください」。大使館の玄関では、待機していた紳士が車のドアを開け、お悔やみの言葉をかけてくれる。特別ビザの発行と英国航空の空席確認まで秘書に指示するその人は、会ったこともない一等書記官だった。頭を下げる私に礼は無用と微笑んで、壁の肖像画を見上げた。「エリザベス女王陛下の政府にとって、英国人を夫にもつあなたは陛下の臣民と違うのです」

涙が溢れた。日本国籍を返上しようかと、本気で考えた……。

物も金も人間も簡単に国籍を超越する今日、スーパー・シチズンの反旗が翻る。政治、政策、行政の質を高めよと国家統治の国際競争を促している。敗ける国は国民の信頼を失い、人材そのものを失う。テロ・麻薬・犯罪の巢と化した国連統治に国命を委ねるアフガニスタンが、その未来を物語る。

「国づくりは人づくり」の意味を覆す、二十一世紀の大課題だ。その到来に、我が国の政治家は気づいているか、いないのか……。

著者紹介

西水 美恵子（ にしみず みえこ ）

1975年、米ジョンズ・ホプキンス大学大学院博士課程修了後、プリンストン大学助教授（経済学）。80年に世界銀行入行。97年、南アジア地域担当副総裁に就任。2003年に退職。現在は独立行政法人経済産業研究所コンサルティングフェロー。07年に、シンクタンク・ソフィアバンク シニア・パートナー就任。著書に『貧困に立ち向かう仕事』。

著者へのご意見やご感想は、下記アドレスにお送りください。

個人メールアドレス nishimizu@sophiabank.co.jp

本稿は、西水美恵子氏が、二〇〇九年六月五日付の電気新聞に、寄稿したものです。
著作権は、著者に帰属しますが、配布は自由に行っていただけます。